

挑戦をやめない!

枚方をさらに前へ!

枚方市民の皆様へ

市政の
ご報告

枚方市長

伏見たかし





だれもが幸せを実感できる未来を創る

市民の皆様には日頃より、枚方市政各般にわたりご理解、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

市長就任以来、少子高齢化・人口減少、経済低成長という厳しい環境の中、改革で財源を生み出し、子育て支援、教育やまちの魅力向上など、未来への投資を積極果敢に推進してまいりました。

2期目の4年間においては、さらに、新型コロナウイルス感染症が立ちはだかり、市民生活に降りかかる苦難をいかにして乗り越えるかを考え、対策を講じてまいりました。

9月の市長任期の満了を間近に控え、これまで取り組んできたコロナ感染症対策、私が市長に就任してから8年間と2期目の4年間を振り返り、取り組みと実績をお知らせするとともに、今後、挑戦する政策についてお示しいたします。

市民の皆様には、ぜひ、この冊子をご覧ください、枚方市の未来のまちづくりについて共に考える機会となりましたら幸いに存じます。

枚方市長 伏見 隆

● PROFILE

出身地 大阪府枚方市
生年月日 昭和43年4月（55歳）
経歴 うみのほし幼稚園、高陵小学校、第一中学校を経て、
昭和62年3月 大阪府立寝屋川高校卒業
平成5年3月 京都産業大学経営学部卒業
平成5年4月 極東貿易株式会社入社
平成13年8月 同社退職
平成15年4月 枚方市議会議員当選（2期）
平成23年4月 大阪府議会議員当選（1期）
平成27年9月 枚方市長就任（現在、2期目）
家族構成 妻、子ども2人（双子の息子と娘）
趣味 野球、柔道、旅行

INDEX

- 03 1. コロナと闘った3年間の軌跡
- 05 2. 市民の皆様とともに歩んできた挑戦と実績
- 13 3. 2期目公約の達成状況
- 21 4. 枚方市の輝く未来のために、今なすべきこと。
- 22 5. 枚方をさらに進化させるための約束
- 35 〈コラム〉枚方市を大阪京都間の副都心として輝くまちに



1. コロナと闘った3年間の軌跡

▶ 必ず乗り越える。コロナの先へ。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、社会・経済活動がストップ。病院や保健所がひっ迫。市民の不安が日増しに募るなか、市民の命と生活を守るために、迫られる判断の日々。

日本中がこれまで経験したことの無いパンデミック。「必ず乗り越える。コロナの先へ。」このスローガンを胸に、誰一人取り残すことのないよう、市役所が一丸となって、厳しい状況にある市民や事業者の皆様にも身を寄せ、声を聴きながら感染対策や支援策に取り組んできました。

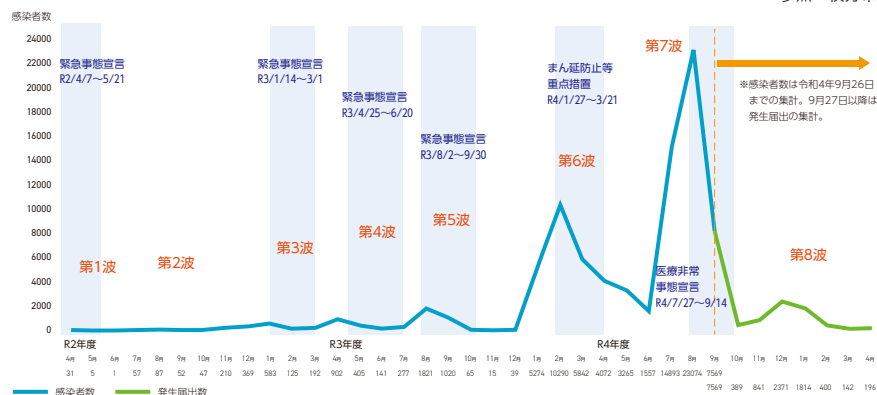
しかしながら、たくさんの市民がお亡くなりになったことは痛恨の極みです。感染症により亡くなられた皆様に、心より弔慰の意を表しますとともに、ご遺族の皆様に対しまして衷心よりお悔やみ申し上げます。

3年に及んだコロナとの闘いも、5月8日に大きな節目を迎えました。診療体制の確保やワクチン接種業務の継続など、必要な感染症対策を講じながら「コロナの先」へ市民の皆様とともに歩みを進めていきます。

この経験を決して忘れることなく、今後の感染症対策に必ず生かしてまいります。



● 枚方市 感染者数等の推移 (令和2年4月～令和5年4月)



▶ 新型コロナ対策～枚方市独自の主な支援策

令和2年度

- ・ひとり親等休業手当
- ・感染者、濃厚接触者への配食サービスや衛生用品等の提供
- ・ひとり親世帯、就学援助世帯の子ども一人あたり5万円給付
- ・コロナで亡くなられた方の遺族に対する弔慰金
- ・事業者による事業継続の固定費10万円を給付
- ・飲食店売り上げ拡大へデリバリー支援
- ・妊婦一人あたり5万円給付

令和3年度

- ・高齢者のICT利用促進
- ・国制度対象外の子育て世帯へ10万円給付
- ・バス、タクシー事業者への運行継続支援
- ・市内店舗で使用できるプレミアム付き商品券発行
- ・妊婦一人あたり10万円給付

令和4年度

- ・水道料金の基本料金等を減免
- ・福祉施設等の光熱費や食料費などの支援
- ・省エネ家電買い替え費用に対する補助
- ・小学校給食費の無償化(3学期分)

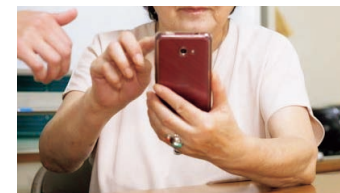
Pick up!

■ 感染症防止宣言を行う市内店舗で利用できるクーポン券発行 (令和2年10月)

市民に地域の商店街や身近な店で安心して買い物や食事を楽しんでいただくことを目的に、新型コロナウイルスの影響を受けている店舗の支援策として「枚方市コロナ対策店応援クーポン券」3,000円分を全市民に配布しました。

■ ワクチン予約サポートコーナーの開設 (令和3年6月～)

スマホやパソコンをお持ちではない人、普段インターネットを利用しない人に対応するための臨時コーナーを開設しました。また、スマホ・パソコンをお持ちでも、操作が不安な人に、入力方法を学べるシステム予約サポート教室を開催しました。



2. 市民の皆様とともに歩んできた挑戦と実績

▶ 2期8年の挑戦と実績

8年前、「消滅可能性都市」の一手手前まで迫っていた枚方市を何とかして活気づけたいという思いで市長選挙に立候補しました。

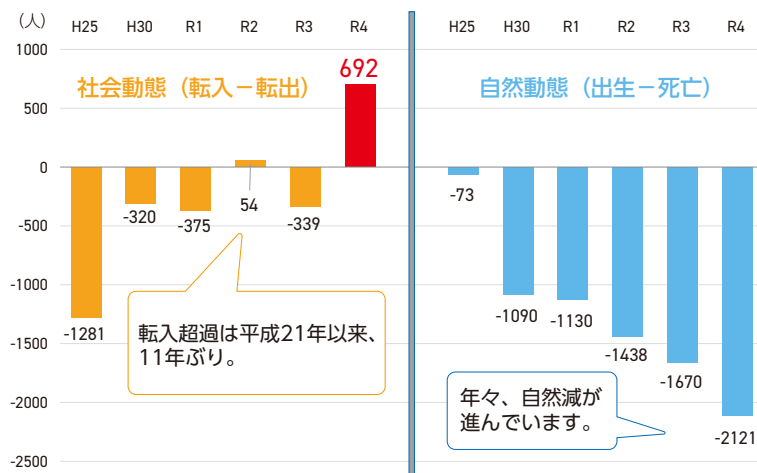
市長就任以来、子育て支援、教育やまちの魅力向上など、未来への投資を積極果敢に推進する中、若年世帯の定着が進み、令和2年

に11年ぶりに転入超過に転じ、昨年は700人近くの転入超過を記録しました。

しかしながら、人口の自然減の勢いは社会増を上回り人口減少に歯止めがかかりません。新たな取り組みに挑戦し、若年世代、子育て世代からさらに「選ばれるまち」をめざします。

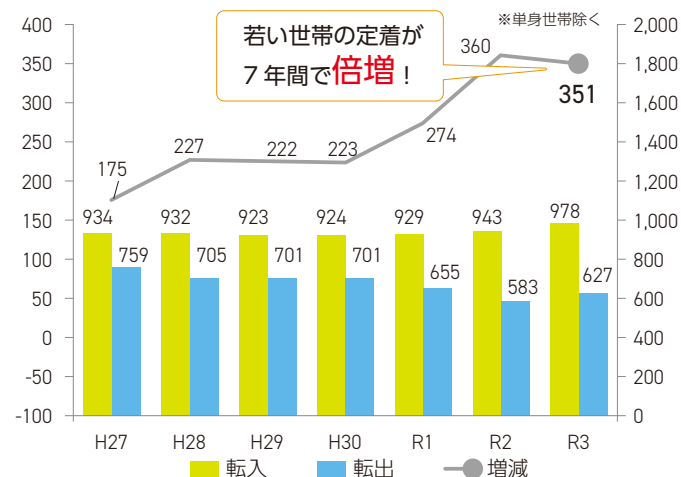
● 枚方市における人口動態(社会・自然)の推移

出典：枚方市統計書



● 20歳～44歳までの社会動態推移(世帯)

参照：枚方市



▶ 子育て世帯に「選ばれるまち」へ！

令和4年における子ども(0～14歳)の転入超過(転入者から転出者の数を差し引いたもの)で近畿3位、**大阪府内1位**を獲得しました。また、民間企業が調査・発表している「買って住みたい街ランキング(近畿圏)」では5年連続上位をキープしています！

2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
1 西宮市	1 大阪市中央区	1 吹田市	1 大阪市中央区	1 大阪市中央区
2 枚方市	2 西宮市	2 大阪市中央区	2 吹田市	2 姫路市
3 大阪市北区	3 吹田市	3 枚方市	3 西宮市	3 東大阪市
4 吹田市	4 大阪市北区	4 西宮市	4 大阪市北区	4 大阪市北区
5 大阪市中央区	5 豊中市	5 尼崎市	5 東大阪市	5 枚方市
6 尼崎市	6 枚方市	6 豊中市	6 枚方市	6 西宮市

(LIFULL HOME'S調査「住みたいまちランキング」より)

● 子ども(0～14歳)の転入超過が多いまちランキング

全国順位	市町村	転入超過数
1	さいたま市(埼玉県)	1520
	}	
12	奈良市(奈良県)	413
	}	
14	明石市(兵庫県)	406
15	大阪府内第1位(近畿3位) 枚方市	384
	}	
17	箕面市(大阪府)	327

※総務省統計局 住民基本台帳人口移動報告 2023年1月30日公表

▶ 枚方市がシティプロモーションで全国区に！

令和元年に製作した市テーマソング「この街が好き」。市民参加で作った歌詞には「河川敷」や「観覧車」「花火」など、枚方らしいフレーズが散りばめられています。ダンスや盆踊りなどのバリエーションがあり、市の行事や地域の催しなどで流れ、市民に広がっています。

この曲をぜひ全国区に！との思いから、プロモーションを展開し、今年2月にはついに「NIKKEI全国社歌コンテスト」で最優秀賞を受賞しました。



▶ 広がる「枚方家族」。市公式SNSで枚方の情報を発信！ (令和5年4月末現在)



LINE友だち数 94,490人



Twitterフォロワー数 15,690人



YouTubeチャンネル登録者数 9,820人



Facebookフォロワー数 4,878人

▶ 子育て・教育の取り組みが各方面で高い評価！

■ 日本子育て支援大賞2022の自治体部門で受賞

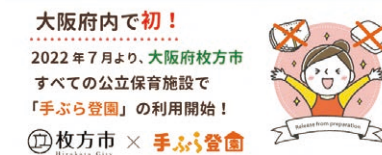
関西の自治体で初！公立保育所で紙おむつや、おしり拭きが持ち込み不要の定額サービスを実施するなど、子育て世帯へのサポートが評価されました。

■ 第17回マニフェスト大賞(2022年)で最優秀グッドアイデア賞を受賞

子ども食堂と食材寄附者をDXで繋ぐ「子ども食堂DX実証実験」が産・官・学の分野を超えた連携として評価されました。

■ 第5回日本ICT教育アワード(2022年)で全国ICT教育首長協議会会長賞を受賞

教育ポータルサイトや教員によるワーキンググループの活動など、枚方市のICTを活用した教育の取り組みが評価されました。



▶ 第2子以降の保育料の無償化

子育て世帯へのさらなる負担軽減を図るため、令和2年4月から市独自の第2子以降の保育料の無償化を実施しています。同一世帯であれば、第1子の年齢要件や所得制限はありません。

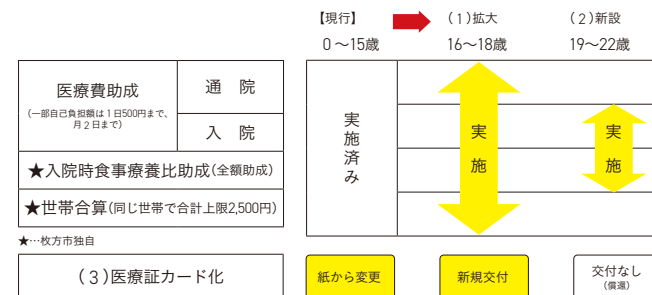
また、これまで保育料に含まれていた副食費についてもあわせて無償化とし、全国に先駆けて第2子以降の保育料完全無償化を実現しました。



▶ 子ども若者医療費助成がさらに充実！ 所得制限の無い医療費助成制度で府内トップレベル

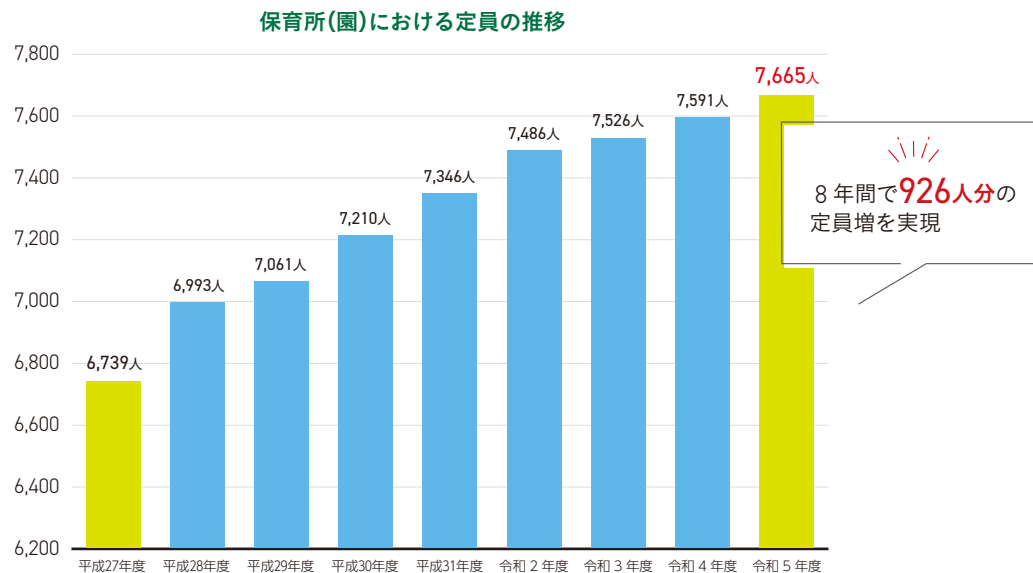
15歳までの子どもを対象としていた子ども医療費助成は、令和5年8月診療分から18歳まで拡大します。

あわせて、19～22歳までの入院費助成も8月からスタートし、「世帯合算(月上限2,500円)」、「入院時食事療養費助成」とともに枚方市の子ども若者医療費助成が充実します。



引用：枚方市議会市民福祉委員協議会資料

▶ 待機児童の解消に向けた保育所の入所枠拡大の取り組み



参照：枚方市

待機児童対策 主な取り組み

小規模保育施設の開設

民営化に伴う定員増

就労応援型預かり保育の実施

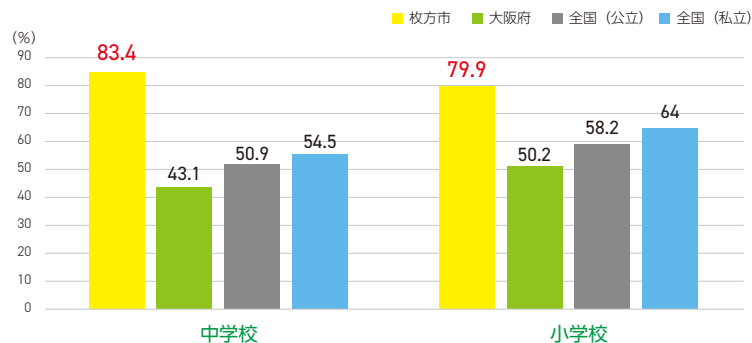
保育所入園手続きの見直し

待機児童用保育室の開設

▶ 子どもたちの生きる力を育む！ 教育の取り組み

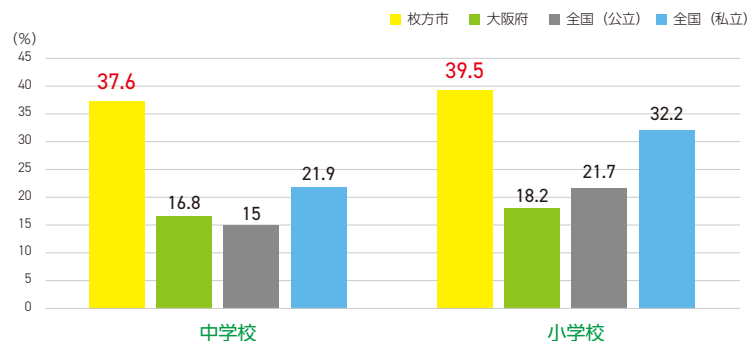
就任以来、力を注いできた教育環境の充実。令和4年度に実施されました全国学力・学習状況調査において、ICT機器の活用割合が全国と比べて小中学校ともかなり高い水準を示しており、一人一台の端末を活用した枚方市のICT教育は順調に進んでいます。

● 授業でICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」使用している。



出典：令和4年度全国学力・学習状況調査 回答結果集計【児童生徒質問紙】

● 学校で自分の考えをまとめ発表する場面でPC・タブレットなどのICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」使用している。



▶ 循環型社会の構築へ！ ごみ減量の取り組み

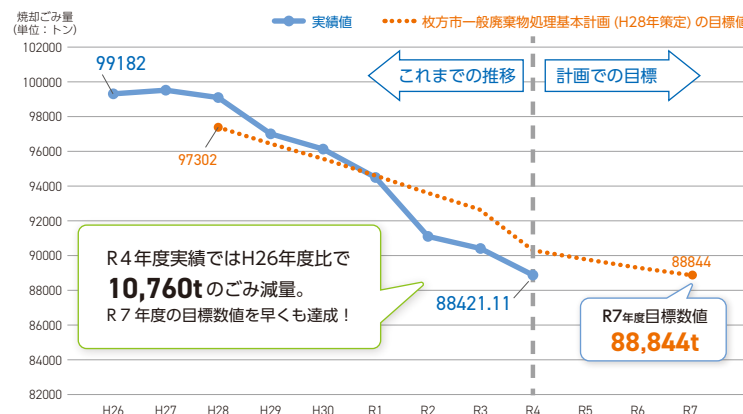
■ 主な取り組み

- ・平成28年に使用済小型家電リサイクルの本格実施を開始
- ・平成29年に食品ロス削減「食べのこサンデー」運動を開始
- ・平成30年にゴミ分別アプリの配信開始
- ・令和1年に古紙の行政分別回収を開始
- ・令和2年に「プラごみダイエット行動宣言」参加者募集
- ・令和4年にフードドライブの試行実施を開始

など

● 枚方市における焼却ごみ減量の推移・目標

参照：枚方市



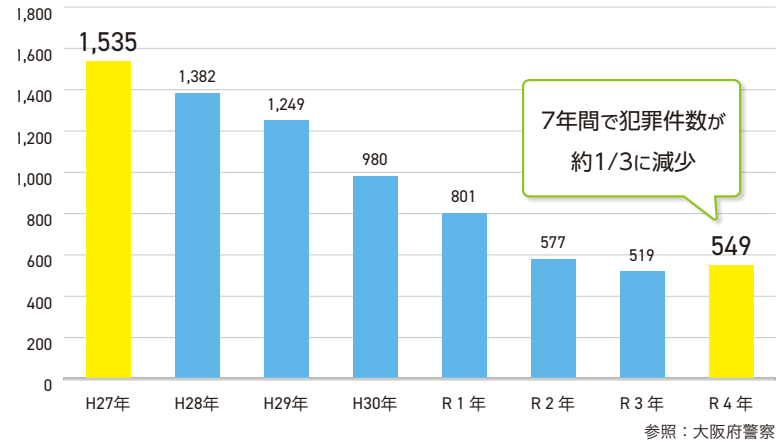
犯罪から市民を守る！ 計画的な防犯カメラ増設で犯罪発生を抑制

防犯カメラを段階的に増設

- ・平成29年度 650台増設
- ・令和元年度 25台増設
- ・令和4年度 30台増設

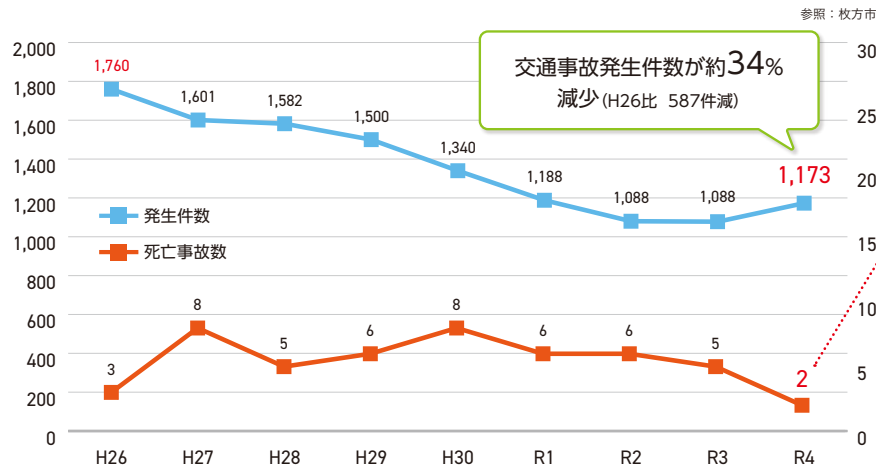
街頭犯罪等の未然防止と犯罪発生時の迅速な対応等を図るため、通学路や交差点等を中心に市内で現在、**1,034台**の街頭防犯カメラが稼働中！

●街頭犯罪認知件数



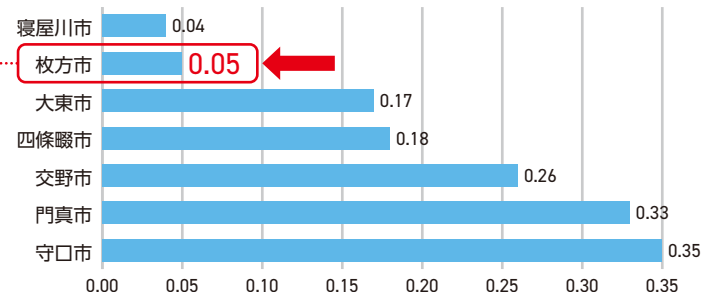
交通事故から市民を守る！ 交通安全対策の取り組みを推進

●枚方市 交通事故の推移



- ・自転車通行空間及び歩道の整備促進
- ・対策が必要な交差点の乗り上げ防止工事
- ・高齢者の免許証自主返納促進
- ・地域や学校等での各種交通安全教室の実施

●令和4年人口1万人当たり死者数(人)



▶ 身を切る改革継続中！ 2期8年で1億円超の効果額

取り組み	効果額
市長給与の20%カットと退職金を不支給	71,968千円
その他特別職の給与カット(5~10%)	23,084千円
市長・特別職の期末手当の支給月数見直し(4.3月分⇒3.35月分) ※平成30年6月~令和5年6月支給	16,367千円
新型コロナ対策。市長給与10%、その他の特別職2.5~5%を上乗せして減額 ※令和5年6月まで	12,400千円

参照：枚方市

2期8年の「身を切る改革」で
約1億2,380万円の
効果額を生み出しました。

▶ 効率的・効果的な組織運営の推進！ 58億円超の効果額

1 期目の主な取り組み

- ・スリムで機動力のある市役所
- ・職員給与の官民均衡を踏まえた適正化
- ・メリハリのある人事給与制度の構築

2 期目の主な取り組み

- ・職員数の適正化
- ・総人件費5%削減

2期8年の組織改革で
約58億4,600万円^(※)の
効果額を生み出しました。

※H27年度の総人件費と比較した各年度(H28~R4)の削減額の合計

▶ 徹底した行財政改革！ 1期・2期の各プランを合わせると約215億円超の効果額

1 期目の主な取り組み	効果額累計 (単位：百万円)
市税等の収入確保(未収金対策強化)	1,931
特別・企業会計の経営健全化と 一般会計繰り出し金の抑制	6,081
メリハリの利いた人事・給与制度の充実	103

参照：枚方市

1 期目の行革プランで
約142億6,000万円^(※)の
効果額を生み出しました。
※一般会計・特別会計・企業会計の効果額の総計

2 期目の主な取り組み	効果額累計 (単位：百万円)
総人件費の削減	2,700
市有財産の有効活用	775
経常経費の配分見直し	1,745

参照：枚方市

2 期目の行革プランで
約72億9,570万円^(※)の
効果額を生み出しました。
※一般会計・特別会計・企業会計の効果額の総計
※令和4・5年度の見込み額を含む

▶ 未来を見据えた投資と健全財政の両立！ 2期8年の財政運営

市長に就任した平成27年度以降、総合文化芸術センターの整備をはじめ、枚方市駅周辺再整備事業、京阪本線連続立体交差事業、都市計画道路の整備、学校園の施設改善など、魅力ある都市基盤整備を積極的に行ってきました。

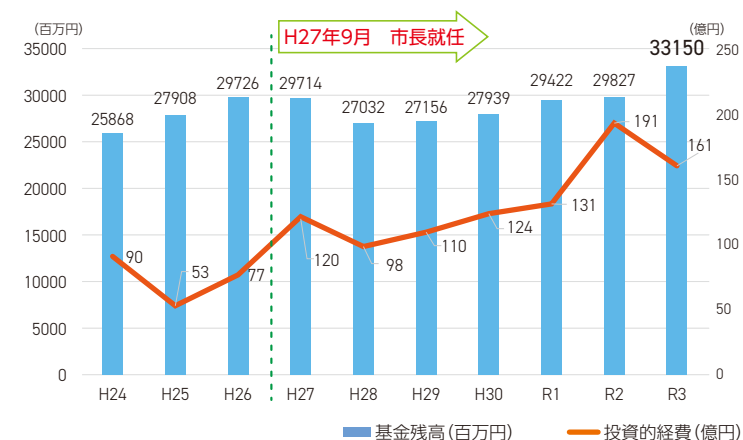
一方、市の預貯金にあたる基金は就任前と同規模で推移しており、令和3年度は前年度に比べ約33億円増加しました。

また、自治体の借入金（地方債）の実質的な返済額（公債費）の大きさを、その自治体の標準財政規模に対する割合で示したものを「実質公債費比率」といいます。市の借金（市債）返済のための経費が歳入に占める割合のことで、その数値が少ないほど、負担が少ないということになります。

本市では、ほぼ0（ゼロ）で推移しており、良好な状態といえます。

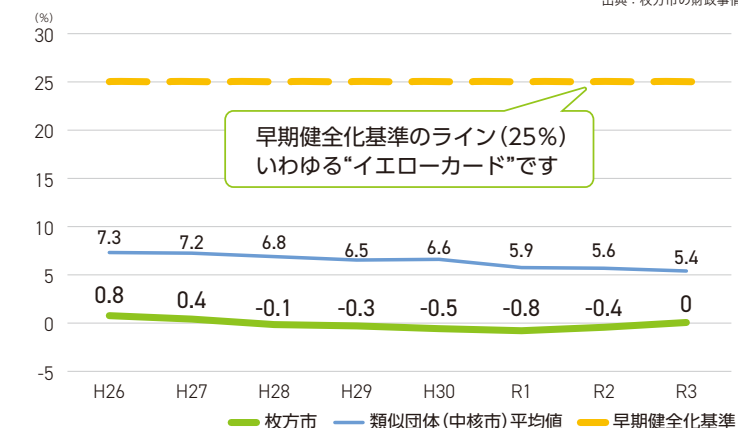
なお、上記の実質公債費比率を含む4指標（実質赤字比率、連立実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率）で構成される「財政健全化判断比率」は、地方公共団体の財政状況を客観的に表す指標ですが、就任以来、いずれの比率も基準ラインを下回る数値で推移しており、健全な財政運営を行っています。

● 枚方市の財政①：基金残高と投資的経費の推移



● 枚方市の財政②：実質公債費比率の推移

出典：枚方市の財政事情



3. 2 期目公約の達成状況 (令和元年9月～令和5年9月)

令和元年9月の市長選挙で掲げた51項目の政策公約は、市民の皆様との約束であり、2期目の市政運営の基本となるものです。主な項目の達成状況をご報告いたします。(伏見市政2期目公約全51項目の最終報告は「伏見たかし公式HP」にて掲載しています。)

▶ I. 魅力で人をつなぐまちづくり

待機児童の解消 ～通年の「ゼロ」へ～ (P.8 参照)

- 私立保育園の施設整備により令和2年度以降、5年度当初までに200人の定員増を実施しました。
- 令和3年10月にさだ西幼稚園、令和4年10月に渚西保育所のそれぞれ閉園後の園舎を活用した臨時待機児童用保育室を開設しました(いずれも定員50人)。
- 令和5年度当初にまずは光の子保育園(分園)に臨時保育室(定員15人)を開設しました。
- 臨時保育室の開設や小規模保育事業施設、認定こども園の定員増などにより、令和5年4月当初の国定義に基づく待機児童数は0(ゼロ)となりました。
- 令和3年4月から就労応援型預かり保育を実施しています。
- 令和5年4月の入園手続きから、利用調整の見直しや希望園の拡大を図ったことにより、希望の施設を利用できていない潜在的な待機児童数は、前年度から大幅に減少しましたが、197人の児童が待機となりました。今後も「通年の0(ゼロ)」の実現に向け、取り組みを進めていきます。
- 保育士確保のため、令和2年4月から市独自で3年間、私立保育園等の保育士1名につき年間最大12万円を支給しています。



中学校給食は全員給食へ

- 令和 4 年度に「今後の中学校給食に関する方針」を策定しました。
- 方針に基づき、施設整備等の可能性調査を行い、令和 8 年度の実施に向けた取り組みを進めます。



留守家庭児童会室の土曜日・夏休み等の開室と放課後の安全な居場所づくり

- 令和 5 年 4 月から全小学校で留守家庭児童会室(①)と放課後オープンスクエア(②)を一体的に運営する「総合型放課後事業」を開始しました。平日、土曜日(①年10回、②毎週)、三季休業期を通じた放課後の安全な居場所づくりに取り組みます。(直営22校、委託22校)



学校園トイレの洋式化を完了へ

- 令和 2 年 3 月に策定した枚方市学校整備計画に基づくトイレ整備(洋式化、ドライ化、ユニバーサル化)について、令和 2 年度以降で予定している106系列のうち、令和 4 年度末までに71系列のトイレ改修工事を実施しました。残りの35系列の整備を進め、令和 5 年度に整備完了予定です。



全中学校生徒に一人一台のタブレットPCを導入 (P.9 参照)

- 令和 3 年 2 月に全市立小中学校の児童・生徒に一人一台のタブレットPC (LTEモデル) を導入し全国トップクラスの環境を整えました。
- コロナ禍の影響や不登校など学校で学べない児童生徒に対するオンラインを活用した授業を実施しました。



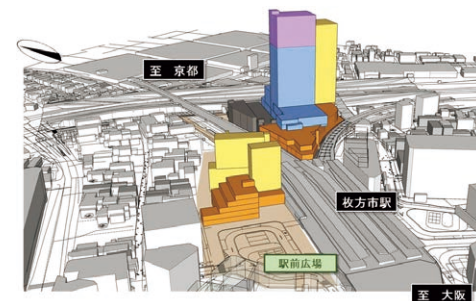
総合文化芸術センターの整備と市民文化の発信

- 総合文化芸術センター本館が令和 3 年 8 月30日にオープンしました。
- 枚方市展、枚方市総合文化祭を開催しました。また、大阪フィルハーモニー交響楽団による中学生を対象としたコンサートや本市出身の世界的ヴァイオリニスト・五嶋みどり氏による支援学校の生徒たちとの共演など、子どもをはじめ様々な市民が文化芸術に触れる機会を創出しました。



枚方市駅周辺の再整備

- 枚方市駅再整備事業③街区における、ホテルや商業などの機能を備えた複合施設は令和 5 年度末から 6 年度初めの完成に向けて建設中です。
- 令和 4 年 9 月に「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」、「新庁舎整備基本計画策定の考え方(案)」を作成しました。
- ③街区に市民窓口や図書館などの行政機能を開設するため、令和 4 年 9 月に現在建設中の複合施設の 5・6 階部分を取得しました。
- 令和 4 年 9 月定例会月議会に庁舎を⑤街区へ移転するための条例改定案(出席議員 2/3 の同意が必要)を提出しましたが、市民周知や財政見通し、提案時期などを理由に否決となりました。
- 令和 5 年度中の新庁舎位置決定や都市計画決定に向けた取り組みなどを進めます。



都市計画道路の整備

- 各道路の整備状況（令和5年3月現在）と完成予定は以下の通りです。

都市計画道路	進捗状況	供用開始予定	備 考
牧野長尾線	58%	R 9 年度末	※ 6 工区は R 4 年度末に完成 ※ 7 工区は R 7 年度供用開始予定
長尾杉線	46%	R 7 年度	※ 杉工区は R 5 年度中供用開始予定 ※ 長尾工区は R 7 年度供用開始予定
御殿山小倉線	33%	R 5 年度	
中振交野線	77%	R 8 年度末	※ 一部区間（さだ神社～府道八尾枚方線）は R 5 年度中の暫定供用開始予定



京阪本線連続立体交差事業①と光善寺駅西地区市街地再開発事業②

- ①は令和5年3月末の事業用地取得率約92%。鉄道高架化工事は主体の大阪府等と連携して令和4年度に着手しました。事業完了はおおよそ10年かかる見込みです。
- ②は市街地再開発組合により、令和10年度の事業完了をめざし、令和4年に既存建物の解体・撤去工事が完了。商業棟は令和5年度完成に向け工事に着手、共同住宅棟は令和9年度完成を予定しています。



▶ II. 安心で人をまもるまちづくり

総合的な防災対策の強化

- 大阪北部地震等の災害の教訓を生かし、本市地域防災計画の見直しを令和2年4月に行いました。
- 地区防災計画の策定にあたっては、モデル校区を設定し、地区防災計画の策定支援を行っています。令和4年度には42の校区・自治会が策定しました。
- 災害時における避難者への支援が迅速にできるよう、115の企業との連携協定を締結しました。また、災害時におけるドローンの活用に向け、3者(企業・団体)と連携協定を締結しました。



浸水対策の強化

- 楠葉排水区における雨水貯留施設の整備については、シールドマシンの破損により工事の遅延が発生しましたが、令和3年5月より工事再開しました。令和5年度に施設の暫定供用を行うとともに、早期の事業完了に向け、取り組みを進めます。
- 令和元年度に溝谷川ポンプ場の整備工事、令和2年度に新安居川ポンプ場の拡張工事が完了しました。



高齢者の居場所づくりと外出支援

- 全ての小学校区において、通いの場など様々な形態で高齢者の居場所を設置しました。
- 令和2年2月から高齢者の居場所がひらかたポイント付与の対象となり、令和4年度までに24箇所が登録しています。
- 令和元年度からのバス利用のひらかたポイント交換に加え、令和4年4月からタクシークーポンへの交換が可能となりました。また、ポイント利用ができる協力店は令和4年12月までに480店と拡大しており、高齢者の外出支援につなげています。



▶ Ⅲ. 改革で人を支えるまちづくり

外郭団体等への支援のあり方の見直し

- 本市の関与の必要性や支援方法について、対象となる11団体のあり方を見直しました。
- 10団体の見直しが完了し、そのうち4団体(株式会社エフエムひらかた・公益財団法人 枚方市国際財団・特定非営利活動法人 枚方市勤労市民会・公益財団法人 枚方市文化財研究調査会)が解散となりました。残りの1団体についても、引き続き経営健全化の促進や支援のあり方について取り組みを進めます。

電子申請の導入

- 令和2年度に窓口来庁予約システム及び窓口支援システムを導入するとともに、行政手続きにおける押印を廃止しました。また、国保料等の支払いについても、クレジットカードやQRコード決済を導入し、キャッシュレス化を推進しました。
- 令和3年7月よりLINE公式アプリを開設しました。
- 令和4年度までに195件の行政手続きのオンライン化が完了しました。
- 令和4年10月から、本庁・各支所・市駅サービスセンターの証明発行窓口へのキャッシュレス決済を導入しました。
- 引越し関連について、令和5年2月から転出届がマイナポータルからオンラインでの届出が可能となりました。また、子育て・介護についても、マイナポータルを活用したワンストップサービスを開始しました。
- 引き続き、ワンストップやキャッシュレス決済、オンライン申請の拡大など、行政手続きのオンライン化を進め、来庁しなくてもいい市役所の実現をめざします。



総人件費 5 % の削減

- 総人件費については、令和 3 年度・4 年度で 5 % 削減(平成30年度比)を達成しました。
- 民間委託や外部人材、公民連携の活用、ICTの活用などにより、効率的・効果的な行政運営を進めました。
- 長時間労働の縮減については、令和 2 年 1 月よりPCシャットダウンシステムを導入。令和 3 年度の時間外勤務時間数は、平成30年度比で20%削減となりました。引き続き、職員の健康管理の観点や働き方改革の一環として継続します。

年度	人件費決算額(千円)	H30年度比
H30	23,257,910	
R 1	22,489,027	▲3.31%
R 2	22,804,751	▲1.95%
R 3	22,087,077	▲5.04%
R 4	21,972,564	▲5.53%

参照：枚方市

指定管理者制度の導入拡大

- 新たな施設である香里ヶ丘図書館とみどりの広場、総合文化芸術センターで指定管理者を選定しました。
- 令和 4 年度に東部公園及び他の公園(4 公園)の指定管理者を選定しました。



効率的・効果的なごみ収集処理

- 一般ごみ収集車両の段階的な委託化を進めており、令和 4 年度末で約 7 割の委託率となっています。
- 東部清掃工場の灰溶融炉について令和 4 年度末に停止(廃止)しました。
- 事業者から排出されるごみ処理手数料については、ごみ処理にかかる原価と乖離していた状況などから、費用負担の適正化を図り、住民負担を軽減するため、令和 4 年12月に関係条例の一部改正を行いました。今後、周知期間を設けた上で、令和 5 年12月から段階的に実施します。

その他達成した 2 期目の公約

- ☑ 「子どもを守る条例」の制定と総合的な支援体制づくり
- ☑ 通学路の安全対策の強化・防犯カメラの増設（P.10参照）
- ☑ 受動喫煙の防止と禁煙を希望する喫煙者へのサポート
- ☑ 既存住宅の耐震化への支援
- ☑ SDGsの推進
- ☑ 新婚・三世代同居支援などの充実
- ☑ 身を切る改革（P.11参照）
- ☑ ホテルの誘致
- ☑ 空家・空地対策の充実
- ☑ 重度障害者の入院支援
- ☑ 手話言語条例の制定
- ☑ 要援護者等への総合的な支援体制づくり
- ☑ 「見える」行政改革の推進
- ☑ 公立保育所の民営化



- ☑ 健康経営の市内事業所への普及
R 5 年 3 月に本市が健康経営優良法人に認定されました。大阪府内自治体で初！



- ☑ 市北部地域の交通環境整備（樟葉駅前広場ロータリーのリニューアル工事 R 3 年度完了）



- ☑ 枚方市版防災アプリの導入（R 3 年 7 月開始）



- ☑ 香里ヶ丘図書館のリニューアル（R 2 年 7 月オープン）

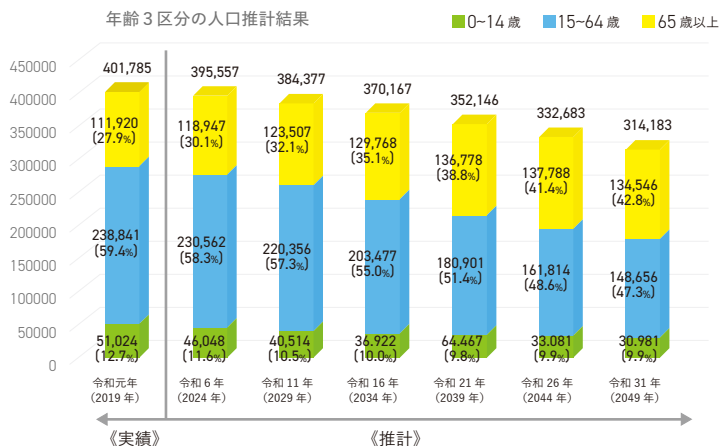


4. 枚方市の輝く未来のために、今なすべきこと。

全国の人口減少や近隣地域の人口減少の状況から、今後、多くの自治体で都市機能の低下に拍車がかかり、都心部へのさらなる一極集中が予想されます。

枚方市は高度経済成長期に人口が急増し、ベッドタウンとして栄えてきましたが、近年、経済の低迷・変化、人口減少、都心回帰などの中、活気を失ってきました。我がまち枚方市が今後、持続可能な発展を果たすためには、急速な少子高齢化・人口減少を緩和し、経済を活性化させなければなりません。

● 定住人口の減少(少子高齢化)



社会全体で子どもを育む環境を整え、**安心して出産、子育てのできるまち**を確立します。そのことにより、子育て世帯を定着させ、次世代に繁栄をつなぐとともに、高齢者福祉を支えることとなります。

また、地域資源を総動員するとともに都市機能を強化することで、関係人口を増やし、経済を活性化させます。大阪・関西万博2025に向けて地域資源(自然、歴史、文化、企業の技術など)を活用した持続可能なイベントやビジネスを創出する「**ひらかた万博**」や枚方市駅周辺再整備事業を力強く推進し、枚方市を「ベッドタウン」から「**大阪京都間の副都心**」へと進化させます。住むだけでなく、働く場があり、学ぶ場があり、楽しいがあるまちへと。

経済の活性化が市民の所得および雇用の向上をもたらすとともに、税収を確保し、住民福祉の向上に資することができます。

私は挑戦をやめない。枚方市の輝く未来のために、市民が幸せに暮らせるまちであり続けるために、今なすべきことに全力で取り組みます。



5. 枚方をさらに進化させるための約束

▶ 4つの取組方針と重点分野・施策

I. 安心して出産・子育てができるまち

1. 子育て環境の充実
2. 生きる力を身につける子育て支援

II. 便利で楽しいがあるまち

3. 生活や産業を支える都市基盤の整備
4. 人々が集い、賑わい、活気あふれる産業・観光の活性化

III. 安全・安心に暮らせるまち

5. 防犯・防災の強化
6. 身近な場所で心身とも健康で生きがいをもって暮らせるまちづくり
7. だれひとり取り残さない持続可能なSDGs推進都市

IV. 行財政改革

8. 事業の見直しや新しい発想で業務の効率化、財源の確保をめざす

I. 安心して出産・子育てができるまち

1. 子育て環境の充実

1-1 子ども家庭センターの設置

枚方市駅直結の複合施設内にこども家庭センターを設置し、母子保健と児童福祉の機能を一体化することで、妊娠期から子育て期の切れ目のない支援を提供します。

サポートを必要とする妊産婦や子ども、子育て世帯へ確実に支援を届けるため、支援メニューの体系的なマネジメントを行う「サポートプラン」を作成します。

また、相談にあたっては、ICT機器を活用した利便性の向上とアウトリーチによる支援を進めます。

1-2 保育サービスの充実

潜在的待機児童の解消に向け、定員増や利用調整の見直しを図るとともに、必要に応じて新たな臨時保育室を開設するなど、今後の保育ニーズを見極めながら、引き続き「通年のゼロ」をめざします。

また、きょうだいが別々の保育所、午睡用ふとんの持ち運び、お弁当づくりなど、保育所（園）や幼稚園を利用している保護者の負担解消を図ります。

在宅子育て家庭への支援のため、一時預かり保育事業の拡充や地域子育て支援拠点（おやこの広場）の増設を進めます。各おやこ広場の空き状況がわかるアプリを導入し、利便性の向上を図ります。

1-3 就学前児童の遊び場の設置

枚方市駅周辺の再整備にあわせ、親子で楽しめる室内の遊び場の設置に向け、取り組みを進めます。

また、子育て世帯のニーズを受けて、身近な公園に幼児や親子が遊べる遊具を設置します。

1-4 児童相談所の設置

市内での深刻な虐待等事案について、一時保護等の決定を市自らが行えるよう、児童相談所を設置します。

設置に向け、準備組織の立ち上げなど体制の整備や専門員の確保、人材の育成を図ります。

2. 生きる力を身につける子育て支援

2-1 夢と志をもって、可能性に挑戦する「枚方の子ども」の育成

子どもたちが自ら課題を見つけ、学び、判断し、行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力を身につけるため、個別に最適な学びと協働的な学びを進めます。

また、タブレット端末の使い方やルール、ブラック校則、枚方市の課題などについて、子どもたち自らが問題を発見し、解決する能力を養うため、課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

土曜日や三季休業期を活用し、学校の授業では学習・体験できない実社会の経験や専門知識を生かした学びの機会を提供するため、市内企業や団体、大学、地域等と連携した取り組みを進めます。

2-2 全小中学校に通級指導教室を設置

全小中学校に通級指導教室を設置し、社会で生きる力を身につけるよう、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを大切にした指導を行います。

2-3 小中学校におけるいじめ、不登校への対応の充実

市長部局に設置したいじめ対策グループによる相談窓口（令和5年7月開設）をはじめ、SNSなど複数のチャンネルで迅速かつ機動的に対応を行うことで、いじめの早期解決を図ります。

不登校児童・生徒へのサポートを充実させるため、青少年のひきこもり対策との連携を強化するとともに、市内の関係機関や団体と連携して、居場所の選択肢を増やします。

フリースクールを利用する不登校の小中学生を対象に授業料の支援を行います。

いじめや不登校への対応強化のため、全中学校区にスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置します。

2-4 小学校給食の無償化と中学校給食の全員給食の実現

小学校給食の無償化を実施し、子育て世帯の経済的負担を軽減します。

また、令和8年度実施予定の中学校給食の全員給食については、新たな給食センターの整備や第一共同調理場の改修を進め、あわせて中学校給食無償化の実現をめざします。

2-5 学校図書館の充実

子どもたちの読書活動や自主的な学習を支援するため、全小中学校に図書館司書を配置します。

2-6 水泳授業における民間活力の推進

児童の泳力向上や学校プールの維持管理・回収費にかかる費用削減のため、民間活力を活用した小学校の水泳授業を計画的に推進します。

2-7 総合型放課後事業の充実

保護者が安心して就労できる環境整備を進めるため、土曜日の放課後オープンスクエアの開室時間を延長します。

また、保護者のニーズに対応した留守家庭児童会室の三季休業期の給食提供サービスを実施します。

2-8 中学校クラブ活動の地域移行

保護者や学校、関係団体等と組織した協議会を設置し、令和5年度から試行実施・検証を行いながら、中学校クラブ活動を地域の運営団体・実施主体による地域クラブ活動へ段階的に移行します。

2-9 新しい時代の学びを実現する学校環境の整備

禁野小学校については、教室と廊下で構成されてきた学校のイメージを脱却し、学校全体を学びの場とする新校舎となるよう、令和8年度中の開校に向け、整備を進めます。

市内小中学校において、学校施設のバリアフリー化を推進するため、計画的にエレベーターを整備します。

更新期となる教室の空調機器をCO₂削減効果の高い機器へ入れ替えるとともに、照明設備のLED化などにより、学校施設のZEB化を進めます。また、子どもたちの熱中症対策と避難所の環境改善のため、体育館に空調を整備します。

将来的な児童生徒数を見据え、学校規模の適正化を進めます。

2-10 貧困の連鎖を止めるための学びの支援

家庭の経済状況により、塾や習い事に行くことのできない子どもたちに、費用助成を実施し、学びの支援を進めます。

2-11 ヤングケアラーへの対策充実

ヤングケアラーの認知度を向上させ、早期発見につなげるとともに、家庭が抱える課題を解決するための相談体制や家事支援制度の強化を図ります。また、複合的な課題を抱える子どもや家庭へのアウトリーチを充実するなど、重層的な支援を実施します。

2-12 教職員の働き方改革の推進

子どもたちにとって、より質の高い授業やより相談しやすい環境をつくるため、学校の働き方改革を推進し、教職員がやりがいをもって健康でいきいきと勤務できる学校づくりを推進します。

Ⅱ. 便利で楽しいがあるまち

3. 生活や産業を支える都市基盤の整備

3-1 京阪本線連続立体交差事業並びに光善寺駅西地区市街地再開発事業の推進

連続立体交差事業については、全事業用地の取得を進め、大阪府等とともに早期の事業完了をめざします。

また、光善寺駅西地区市街地再開発事業については、令和10年度の事業完了に向けて、市街地再開発組合へ継続的な技術・財政支援を進めます。

3-2 快適な通行空間の整備

現在整備を進めている都市計画道路については、以下の開通予定に向け、工事を進めます。

- ・牧野長尾線：令和7年度（長尾杉線以南は令和9年度）
- ・長尾杉線：令和7年度（杉工区：令和5年度、長尾工区：令和7年度）
- ・御殿山小倉線：令和5年度
- ・中振交野線：令和8年度（令和5年度に暫定供用開始）

また、歩行者の安全対策が必要な道路の歩道拡幅及び設置を計画的に進めるとともに、新たな道路整備にあわせ、自転車道・自転車通行空間を整備し、人や自転車が安全で快適に通行できる空間の整備を推進します。

3-3 新名神高速道路インターチェンジへのアクセス道の整備促進

アクセス道となる内里高野道線（国道1号から長尾家具町線までの区間）、長尾家具町線（内里高野道線から牧野長尾線までの区間）を大阪府と連携して整備を進め、令和5年度末の開通をめざします。

また、枚方と高槻を結ぶ渡河橋（牧野高槻線）とそのアクセス道となる府道京都守口線の渋滞対策については、令和11年度の事業完了を目標に大阪府で計画が進められており、本市においては事業用地取得を進めます。

3-4 地域のまちづくり（土地区画整理事業）への支援

居住空間・経済活動と周辺環境が調和したまちなみを創出するため、地域が進める村野駅西地区、茄子作地区、高田地区及び長尾駅周辺のまちづくりへの必要な支援を行います。

3-5 地域と連携した空き家対策の充実

流通や利活用に向けた仕組みをさらに進めるため、地域と連携した空き家の実態把握や地域に出向いたセミナーの開催、空き家に関する相談体制の整備など、地域密着の対策に取り組みます。

3-6 中宮浄水場の更新

老朽化が進む中宮浄水場の移転（隣接地）・建て替えを進め、令和8年度に試験運転を開始し、令和9年4月の通水開始をめざします。

3-7 可燃ごみ広域処理施設の整備

穂谷川清掃工場第3プラントの老朽化に伴う代替施設として、京田辺市と共同で可燃ごみ広域処理施設の整備を進めており、令和7年度末の本格稼働に向け、建築工事を進めます。

4. 人々が集い、賑わい、活気あふれる産業・観光の活性化

4-1 枚方市駅周辺再整備事業の推進(P.35～36参照)

連鎖型のまちづくりを進めるうえで不可欠な市役所の⑤街区への移転を実現するため、再度、市議会に移転条例を提案します。

枚方市総合文化芸術センター及び③街区の市街地再開発事業に引き続いてまちづくりを進めるために、④⑤街区での土地区画整理事業について令和6年度末の都市計画決定に向けて取り組みます。

新庁舎については、庁舎機能をさらに高めるため、オンライン相談の体制整備など行政サービスの充実を図るとともに、防災機能の向上や民間提案による付帯施設の整備等をめざし、令和6年度末までに機能・規模を整理します。

枚方市駅と直結した③街区の複合施設がオープンする令和6年度前期にあわせて、枚方市周辺における生涯学習交流センターや図書館、市民窓口など、行政サービス等の機能を移転・集約します。また、DXの観点を取り入れ、複数業務のワンストップ窓口や手続のオンライン化を進めます。

4-2 地域資源を活用した観光事業の活性化

枚方宿を起点とする観光事業を展開するため、枚方宿エリアに新たな観光スポットを創出するとともに、街並みや町家の保全に向けた取り組みを進めます。

淀川舟運の充実や水辺アクティビティの展開、サイクルロードの中継ポートの整備、魅力あるイベントの開催など、淀川エリアのさらなる活性化を図ります。

外国人観光客の誘致に向け市内大学生や留学生と共に体験型コンテンツの創出とプロモーションを推進します。

百済寺跡の築地塀再現や楠葉台場跡へのシンボル設置など歴史文化遺産を活用した観光施策を展開します。

また、東部地域の市立野外活動センターをさらに使いやすくリニューアルするとともに、同エリアの資源や民間活力を活用して、魅力ある東部ツーリズムを創出します。

4-3 ひらかた万博の推進

2025年大阪・関西万博に向けて、枚方市全体を「枚方パビリオン」に見立て、地域・市民団体、事業者、大学等、多様な主体と連携し、枚方の魅力向上につながる上記4-2（地域資源を活用した観光事業の活性化）の事業やイベント等を市内の様々な場所で実施していきます。また、ひらかた万博共創プラットフォームにおいて、地域資源を活用した新たな産品（ひらかた万博ブランド）や地域ビジネスモデルの創出を進めます。

あわせて、本市の魅力向上・地域経済の活性化に向け、大きな可能性を持つ「空飛ぶクルマ」の発着場整備への取り組みを推進します。

4-4 文化芸術やスポーツに親しむことのできる環境の整備

市内にスケボーパークを整備するとともに、ひらかたスポーツ協会や民間のスポーツ施設などと連携して、eスポーツを活用した事業を展開します。

また、プロスポーツチームと連携した観る・するスポーツの推進を図るとともに、市民ニーズ等を踏まえた上で、観るスポーツの拠点施設にかかる立地や財源確保など、可能性について検討を進めます。

豊かな音の響きと優れた視認性において、利用者から高い評価を受けている総合文化芸術センターにおいて、国内外の著名なアーティストを招聘した鑑賞事業などに取り組み、さらなる充実を進めます。

市駅周辺再整備にあわせ、④街区で民間活力をいかした文化芸術の体験や公園・広場と連携した健康増進が楽しめる空間を創出します。

4-5 創業・起業がしやすいまちへ

市内で活発にビジネスが生まれ育つまちをめざし、北大阪商工会議所等と連携して、創業支援事業の充実や事業承継の支援など、創業・起業への支援を展開します。

4-6 活発な地域産業の展開

市内の商工業が活発な事業を展開できるよう、ふるさと納税を活用した商品開発支援を行うとともに、2025年大阪・関西万博を見据え、地域一体型のオープンファクトリーを開催し、本市のものづくり企業の魅力を市内外に発信します。

枚方市への移転や敷地拡大を検討する企業に有効な情報が提供できるよう、相談体制を強化するとともに、制度設計の調査を進めます。

また、若者の市内企業への就職を促進するため、奨学金の返還を支援します。

4-7 「農」を守り、産業化を推進

枚方市の農業を守るため、新規就農者育成支援事業を実施し、就農から経営までサポートします。

本市の特産物をいかし、新たな商品開発を進めるとともに、農業体験や古民家を活用した観光ビジネスを支援し、公民連携で東部地域の「農」や里山の文化を次世代に継承します。

Ⅲ．安全・安心に暮らせるまち

5．防犯・防災の強化

5-1 災害に強いまちづくり（ソフト事業）

SNSによる避難情報の発信や自動音声配信電話による個別案内などの取り組みを進め、迅速で正確な避難情報を提供するとともに、ICTを活用し、災害リスクをより分かりやすく伝えるハザードマップの作成を進めます。

地域が自主的に取り組む地区防災計画の作成支援や避難行動要支援者の個別避難計画作成支援などの対応を進めます。

また、浸水想定区域外に校区を超えて避難する「広域避難」のルール化や広域避難訓練の実施など、避難体制の整備を推進します。

災害時の安全な居場所を確保するため、住宅、建築物の耐震改修に向けた普及啓発の強化や耐震化補助制度など費用負担軽減の取り組みを進めます。

あわせて、要支援者を対象とした、家具固定器具の購入補助、固定作業補助を実施します。

5-2 災害に強いまちづくり（ハード事業）

老朽化が進む枚方消防署の移転・建て替えを進めます。

配水場、ポンプ場などの重要な上下水道施設の耐震化を計画的、継続的に実施します。

また、これまでに浸水被害が発生した地域の対策を順次進めます。

5-3 犯罪が起こらないまちづくり

既設の防犯カメラの更新を進めるとともに、地域ニーズがある箇所への増設を進めます。

防犯灯の持続可能な管理体制に向け、経年劣化する防犯灯の取替えや修繕を円滑に進めるとともに、地域の意見を聞きながら、補助制度のさらなる充実を図ります。

また、特殊詐欺被害防止に向け、被害ケースを効果的に情報提供するなど、警察をはじめ、関係機関や地域との連携を強化します。

6. 身近な場所で心身とも健康で生きがいをもって暮らせるまちづくり

6-1 市民の健康寿命の延伸

がん検診、特定健診、人間ドックなど各種健診の受診率向上に向け、ビッグデータを分析・活用し、効果的な受診勧奨に取り組みます。

また、マイナポータルの個人健康記録（PHR）を活用し、市民の健康づくりに保健師等が相談に応じるなどの支援を進めます。

先進がん研究に取り組む関西医科大学等と連携して、がんへの不安がない社会の実現に向け、産学官民連携のプロジェクトを推進します。

働く世代における健康づくりの推進に向け、市内企業が行う健康経営の取り組みを促進します。

6-2 高齢者がいきいきと過ごせるやさしいまちづくり

65歳以上の市民がセカンドステージを楽しく、生きがいを持って過ごせるよう、民間活力をいかした介護予防事業を推進するとともに、同事業をきっかけに結成された自主グループ等の活動を支援し、高齢者の居場所づくりを進めます。

高齢者の介護予防や外出支援のさらなる促進、また、高齢者をはじめ市民の健康増進に資するため、ひらかたポイントアプリの機能を拡充し、利便性の向上を図ります。

認知症への総合的なアプローチができるよう、認知症の早期発見・早期対応や継続した予防活動、本人や家族の負担軽減に向けた取り組みを進めます。

あわせて、高齢者のごみ出し支援の対象を拡大します。

6-3 障害者の自立支援と社会参加の促進

障害者への意思疎通を支援するため、遠隔手話通訳サービスを推進します。

障害者スポーツ・レクリエーション教室の開催を通じ、社会参加を促進します。

グループホームの重度障害者の受け入れ先を拡充するとともに、医療的ケアが必要な人の受け入れ先についても拡充します。

学びの機会を保障するために実施している難聴児への補聴器購入補助を拡充します。

6-4 感染症予防の推進

新型コロナ対応の経験を踏まえ、感染症予防計画及び健康危機対処計画を策定し、地域保健体制や医療連携を強化します。

市駅周辺再整備に伴う保健所の移転（現保健センター）を契機に、市立ひらかた病院及び三師会が集まる市医師会館に隣接する立地をいかし、平時から訓練や研修を連携して実施するなど、健康・医療ゾーンとして感染症や災害等の健康危機管理の拠点となるよう取り組みます。

7. だれひとり取り残さない持続可能なSDGs推進都市

7-1 女性活躍の推進

男性の育児休暇の取得、女性が働きやすい市内企業の応援など、女性が活躍できる環境づくりを推進します。

また、男女共同参画社会の実現に向け、ロールモデルとなるよう、市役所職員の男性育児休暇取得率100パーセントをめざします。

7-2 多文化共生の推進

近年増加している外国人市民や市内大学に通う留学生が安心して楽しみながら暮らすことができるまち、また多くの外国人観光客が訪問したくなるまちをめざし、多文化への理解促進や生活情報、標識、案内版などの多言語化、生活相談窓口の設置、推進体制の整備を進めます。

7-3 人権尊重のまちづくり

ヘイトスピーチやインターネット上での誹謗中傷、性的マイノリティへの差別・偏見等、多様化・複雑化する人権侵害の解消を推進します。

7-4 自然との共生とゼロカーボンシティの推進

豊かな自然や里山、農地を活用した東部地域の活性化に向け、地域・民間・大学等と連携した「癒しの郷 氷室・津田〜美 Health プロジェクト」を推進します。

2050年「二酸化炭素排出量実質ゼロ」実現に向け、令和9年度までに家庭における温室効果ガス排出量を37%以上削減（令和2年度比）するため、省エネルギーや再生可能エネルギー、EVの普及促進に向けた取り組みを進めます。

また、循環型社会を推進するため、ごみの再資源化やリユース事業、フードドライブの充実に取り組みます。

IV. 行財政改革

8. 事業の見直しや新しい発想で業務の効率化、財源の確保をめざす

8-1 市長給与の削減30%に引き上げ、退職手当ゼロを継続

就任1期目で掲げた「市長給与20%削減、退職手当ゼロ」をさらに引き上げ、「市長給与30%削減、退職手当ゼロ」とします。

8-2 スマート自治体の推進

自宅等からのスマホやパソコンなどを活用した申請手続きを拡充するとともに、支所など身近な場所で、オンラインによる申請手続きや相談等ができるようにします。

また、来庁された市民にも「書かない・待たない・回らない」窓口・手続きを推進します。

新庁舎においては、オンライン相談の体制充実を図り、スマート自治体の中枢を担うとともに、災害時においても対策本部機能が最大限発揮できる強靱な防災拠点となるよう、デジタル技術を活用した機能の確保をめざします。

8-3 効率的・効果的なごみ収集処理

一般ごみ収集の乗車体制を3人から2人に見直すとともに、ごみ収集業務の民間委託率を令和6年度までに8割に拡大します。

また、事業系ごみの減量指導と排出事業者に適正な処理費用を求め、住民負担を軽減します。

8-4 公民連携の推進

民間活力を活かした行政課題の解決、住民サービスの向上、財政負担の削減に向け、公民連携の取り組みを推進します。

また、公共空間の活用など、民間事業者や各種団体のニーズを受けて、規制緩和を促進します。

8-5 公共施設マネジメントの推進

20年、30年先を見据え、学校施設など公共施設全般の統廃合を含めた適正配置の在り方を将来ビジョンとして策定します。

8-6 財源確保の取り組み

ふるさと納税、企業版ふるさと納税、ネーミングライツ、市有財産の有効活用など、これまでの取り組みをさらに充実させ、自主財源の確保を進めます。



枚方市の輝く未来のために、
市民が幸せに暮らせる
まちであり続けるために、
今なすべきことに全力で取り組みます。



▶ 枚方市を大阪京都間の副都心として輝くまちに ～枚方市駅周辺でめざすまちづくり～

枚方市の中心部である枚方市駅周辺の都市機能を充実させ、多様な目的で市内外から人が訪れる、そこにビジネスが栄え、また、人が訪れる。大阪京都間の副都心をめざして枚方市駅周辺再整備事業に臨むものです。

本事業は、現在、駅北口及び東側（③街区）で市街地再開発組合により、ホテル、オフィス、商業、集合住宅などから構成される複合施設の建設が進んでいます。また、複合施設に大阪府北河内府民センターが移転し、市役所の市民窓口、生涯学習交流センター、図書館分館などを開設します。

いよいよ来年度にまち開きを迎えます。

次に市役所、旧市民会館周辺（④街区）と北河内府民センター周辺（⑤街区）のまちづくりへと進みます。

北河内府民センターの③街区への移転後に市庁舎を⑤街区に新築し、④街区ではニッペパーク（岡東中央公園）を拡大し、緑の大空間を形成し、市役所や旧市民会館の跡地に民間から提案を受けて賑わいのあるまちづくりを行う計画です。なお、新庁舎の位置については、市の財政負担、経済効果、駅周辺の賑わいや回遊性などについて、④街区と⑤街区の比較検討を行った上、令和3年3月に策定した枚方市駅周辺再整備基本計画に⑤街区と位置付けています。



街区図



広場等と一体となった商業・業務機能イメージ

これまで述べてきた枚方市駅周辺のまちづくりは枚方市駅周辺再整備基本計画に基づき進行中ですが、この基本計画の一端を担う市役所を⑤街区に移転する条例案が、昨年9月の市議会で否決(賛成 18・反対 12。可決には3分の2の賛成が必要)されました。一方、新庁舎が駅から遠ざかるため、③街区に市民窓口を設置することとしています。そのための民間ビルの床を購入する予算案は同じ9月市議会で可決され、ねじれ状態となっています。(3分の2以上の賛成による)

7月以降、さらに市民説明会等を実施し、広く市民の皆様にご理解をいただくとともに再度、⑤街区に市役所を移転する条例案を市議会に提案いたします。



④⑤街区の土地利用のイメージ

挑戦をやめない！
枚方をさらに前へ！

伏見たかし
公式SNS

情報発信中 ㊿



@FushimiOfficial



アメーバブログ



伏見たかし



伏見たかし 公式ウェブサイト



<https://tfushimi.net/>



fushimi@ray.ocn.ne.jp

ふしみ市政だより 特別号

〒573-1182
大阪府枚方市御殿山町6-19 金森ビル 3 階

発行日：2023年 7 月10日
発行人：伏見たかしを支援する会